

聖地報

遂に蔣介石氏を銃殺？

止むなく武力討伐を決意

前英帝御出發

南京軍河南省北部に移動し始む

(東京十四日) 蔣介石氏は十二日前陝西省府西安に於て逮捕された如く傳へられてゐるが十四日外務省に達した情報によると、蔣氏はすでに約一週間前から監禁され、南京政府は此の間學良との間に多方手を盡し妥協工作に努めたが遂に平和的手段は成功せず止むなく武力討伐を決意し十二日逮捕の事實を發表したとの説も有力に傳へられてゐる。

(上海十四日) 外人側消息によれば張學良の本來隸屬奉天及び討伐令は十三日張學良の許に通達されたが張學良は之に激怒し十四日未明遂に蔣介石氏を銃殺したと傳へられる。

(北平十四日) 渭南省の省境渾河に張學良軍一ヶ師派遣され、今回事件の根源地たる西安・瀋陽と結ぶ鐵道防備に當つてゐるが、南京軍も今朝來頻りに大兵を河南省北部に移動し始め此の方面で或は會戰が行はるゝやども観察されるが蔣氏殺害は未だ確認されざる現象とて中央派材を以て新たに中央政府を組織すべし」と吹聴したが實業主張宋哲元氏は良に「共產主義との結託は誤り」譯して打撃を寄せたと傳へられる。

南京政府は諸新聞に事件の詳細なる報道を禁止、人心を煽る爲めに極端に内乱激發の避諱を望んでゐるものゝ如く、南京軍飛行隊侦察告依れば西安には防空施設充備し物々しく諸所に高射砲陣地を構築してゐる状が觀取されたといふ、更に學良は西安市民に對し「聲明を發し蔣介石氏の政敵を敵と説いて了」と宣傳したが張學良は蔣氏に對し「即時抗日開戦」を迫つたが蔣氏は頑強に之を拒絶したが爲である。

右放送が支那全土に傳はるや居て周章狼狽し向後の方對策を講じる中でこの蔣氏の死を聞きながら尙その中に一縷の望を抱いてゐる。(東京ラヂオ十六日) 張學良軍に屬する西安放送所は十五日の放送に於て遂に拘禁中なりし蔣介石氏の殺害を放送するに到つた、その理由とする處は張學良は蔣氏に對し「即時抗日開戦」を迫つたが蔣氏は頑強に之を拒絶したが爲である。

左放送が支那全土に傳はるや居て周章狼狽し向後の方對策を講じる中でこの蔣氏の死を聞きながら尚その中に一縷の望を抱いてゐる。

陸相車中で

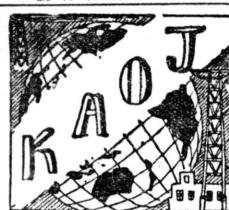
事件真相を聴取

國民に告ぐ

ウインザーハウスの御挨拶

(ロンドン十一日) エドワード八世は退位直後午後十時前皇帝は退位したマイクを通じ、大次のより張學良叛乱事件の眞相、小田原克出迎へ梅津次官

より張學良叛乱事件の眞相、



★十一日

日獨接近は必然

成立祝賀會

外相獅子吼

印 刷 物

の 御 注 文 は

聖地報社に!

内外雜貨商品 日本品蓄音機販賣

土屋商店

土屋三郎

土屋雄四郎

土屋正幸

土屋

</

